

# 事務事業評価シート

評価年度 22年度

事業名 CD		葦崎市水道事業（地方公営企業）		
細分化した事業名				
事業担当課室 CD	300300	上下水道課	整理コード	500101

## 〈事務事業の位置づけ〉

第5次長期総合計画での目的体系	大項目	美しい自然と共生する快適なまちづくり		
	中項目	住みよい快適な都市の実現		
	小項目	上下水道の整備		
	主要施策	水道水供給の充実		
実施CD	11			
関連する個別計画等	葦崎市水道事業経営変更認可（第8次拡張事業計画）		根拠条例等	水道事業の設置等に関する条例、水道法、地方公営企業法
関連する事業				

## 〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	恒久的な水源確保、送配水管の計画的な布設並びに適正な管理、また質の高い需要者サービスとして、安全・清浄でより低価格な水道水の安定供給に努め、公衆衛生の向上と衛生的な生活環境の維持・改善を目的とする。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	水道事業経営変更認可（第8次拡張事業）に基づき、本市行政区域内における計画給水区域内に居住する市民及び専用水道を有しない事業所を対象とする。
これまでの改善経過	昭和32年3月31日葦崎市上水道事業を創設し、昭和35年第1次拡張事業認可以降、昭和51年4月第5次拡張事業認可により甘利上水道事業を統合し上水道事業の一本化を行った。その後、平成4年3月第8次拡張事業認可により、穂坂・藤井・中田・穴山・上ノ山・岩下地区の13簡易水道事業を統合、さらに平成11年4月には上水道事業との統合を実施。平成20年4月の第8次拡張事業の変更認可を経て、現在は計画給水人口28,800人、計画一日最大給水量16,700m <sup>3</sup> を目標に経営しており、自己水源に併せ塩川ダム水の受水を行っている。
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 ■ 市 □ 委託 □ 補助金 □ その他 ( )</p> <p>葦崎市上水道事業に関する施設及び業務概況（平成21年度末現在） 給水区域面積1,571ha、給水人口28,013人、年間総配水量4,200,585m<sup>3</sup>、送・配水管延長278,516m、配水池設置数22箇所、有形固定資産総額5,786,001千円、上水道所属職員数8人 水道料金（一般専用水道・口径20mmの場合） 基本水量10m<sup>3</sup>、基本料金1,144円/月、量水器使用料262.5円/月 超過料金（1m<sup>3</sup>に付）11m<sup>3</sup>～50m<sup>3</sup>以下143.85円、200m<sup>3</sup>以下200.55円、201m<sup>3</sup>以上255.15円</p>
事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか)	水道事業経営変更認可（第8次拡張事業）に基づく施設整備を計画的に実施し、限りある水資源（水道）の有効利用を図り、より質の高い安全で良質な水の安定的な供給を行いながら給水収入の増加を図る。

## 〈投入費用及び従事職員の推移〉

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
事業費	A 水道事業収益① (千円)	804,893	821,926	818,582
	うち給水収益	555,226	585,754	585,525
	うち他会計補助・負担金	196,000	179,586	191,407
	水道事業費用②	804,354	814,986	812,303
	うち職員給与費	66,414	63,002	63,313
	うちダム受水費	306,660	339,768	339,768
	当年度純利益(△損失)①-②	539	6,940	6,280
資本的収入(税込)	340,779	299,462	511,235	
資本的支出(税込)	573,326	599,856	799,112	
B 担当職員数(非常勤   職員E)		8.00	7.20	7.00
* 参考	H20)市民1人当りの事業コスト	24,695 円	H20)市民1人当りの行政サービス費用	579,596 円

注1) 担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2) 平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、18年度(6,449千円)、19年度(6,901千円)、20年度(6,909千円)を使用しています。

注3) 一般財源とは使途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			19年度	20年度	21年度
活動指標	年間総配水量	(千 $m^3$ ) * 年度末業務統計資料	4,408.2	4,265.9	4,200.6
	年間有収水量	(千 $m^3$ ) * 年度末業務統計資料	3,626.8	3,517.6	3,464.9
	給水戸数	(戸) * 年度末業務統計資料	10,882	10,863	10,892
	給水人口	(人) * 年度末業務統計資料	28,472	28,443	28,013
	塩川ダム水受水量	( $m^3$ /日) * 塩川ダム責任水量	9,300	9,300	9,300
成果指標	一日配水能力	( $m^3$ ) * 年度末業務統計資料	21,600	16,700	16,700
	上水道普及率	給水人口/区域内人口 (%)	97.90	97.90	97.29
	供給単価	給水収益/有収水量 (円/ $m^3$ )	153.09	166.52	168.99
効率指標	有収率	有収水量/総配水量 (%)	82.27	85.50	82.49
	営業収支比率	営業収益/営業費用 (%)	86.66	88.20	85.82
	料金回収率	供給単価/給水原価 (%)	69.03	71.87	72.08
	料金収納率	収入済使用料/使用料調定額 (%)	97.30	96.90	97.26

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 給水区域内において、安定した衛生的水道水を確保するという目的に対し、必要水量の水源確保と配水設備整備に併せ、必要な施設改修を計画的に行っている。
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 峡北広域水道企業団からの受水により、安定した給水が行われている。老朽管の更新が費用面からなかなか進捗しないため、有収率の向上につながらない状況である。
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input checked="" type="checkbox"/> C 効率的でない 滞納対策等により料金回収率が向上しているのに対し、受水費用の負担等で営業収支比率が上がらず事業の経営に大きく影響している。 また、施設整備の面からも老朽管等の破損が多く、修繕費がかさむ傾向にあるため、今後集中的に老朽管の改修・更新を進める必要がある。 なお、適性な収納に努めたが、景気低迷の影響を受け料金収納率が若干低下した。

総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
------	--

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input checked="" type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり
---------	--

改善案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 使用料の適正化に努めることで経営の安定化を図り、老朽管の布設替工事と他公共事業との同時施工を可能なかぎり行っていくなご、給水経費の節減を図りながら有収率の向上に努める。 また、水源の確保(休止中の水源使用も検討)と工業用水の確保を今後検討していく。	(2) 22年度 ①老朽管布設替工事	(3) 21年度 ①老朽管布設替工事 ②甘利浄水場築造工事
	21年度の改善計画 老朽管布設替工事		
	21年度の改善結果 ①老朽管布設替工事 ②甘利浄水場築造工事		

市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること)	給水原価に見合った適正な使用料となるよう、利用者負担の設定を行う。
---	-----------------------------------

課長所見	良質で安定した水道水の供給のため、これからも施設の維持管理の徹底と更新は必要である。上水道事業の経営健全化のため、水道料金の改定を実施させて頂いた。しかし世界経済の低迷の影響もあり、結果として給水収益の伸びも鈍化となった。これからも料金収納率向上に努めると共に、収支バランスの取れた経営と長期計画及び地域水道ビジョンに基づき適切な事業展開が必要である。
------	--